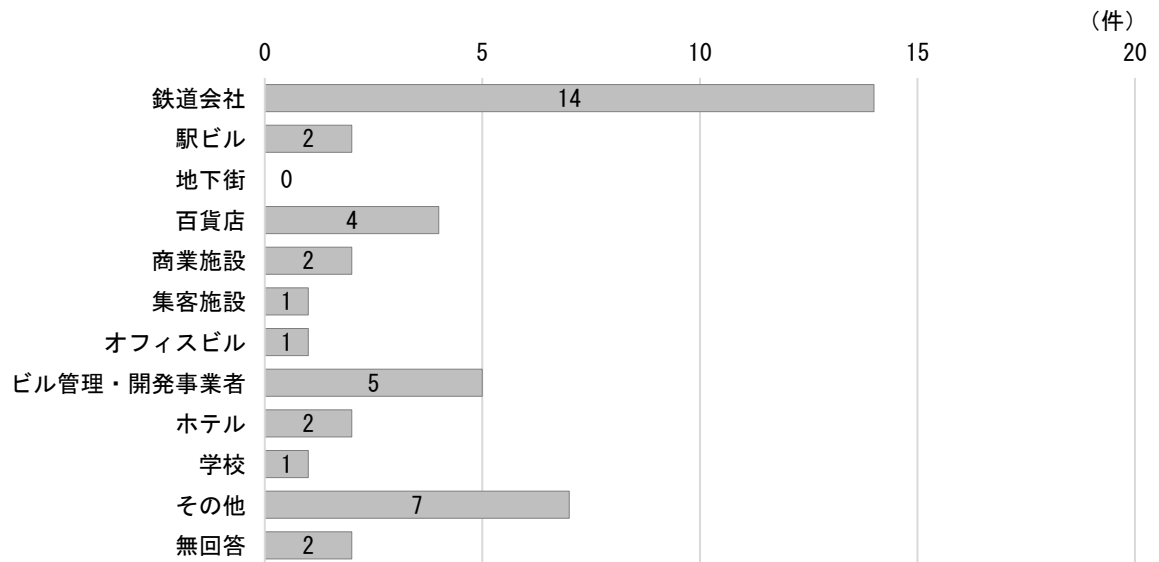


# アンケート結果

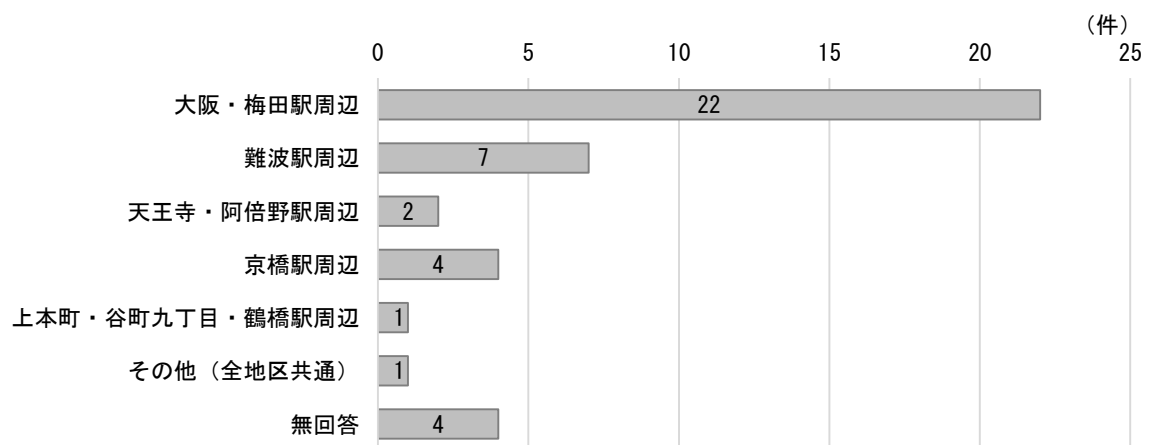
## (1) アンケート回答者の概要

### ■業種



N=41

### ■地区



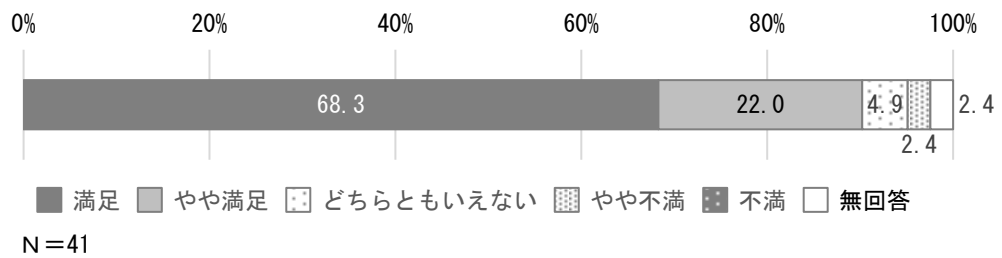
N=41

## (2) 講演内容についての評価

講演内容について9割程度が満足傾向

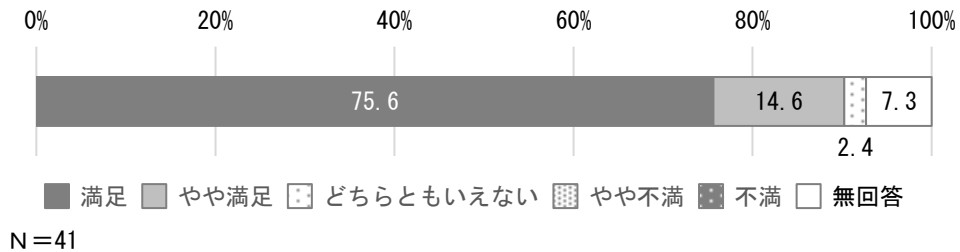
### 一斉帰宅抑制と企業の社会的責任

(工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授/防災・減災教育センター 所長  
村上様)



### 阪神・淡路大震災で被災した経験を持つ鉄道事業者としての役割

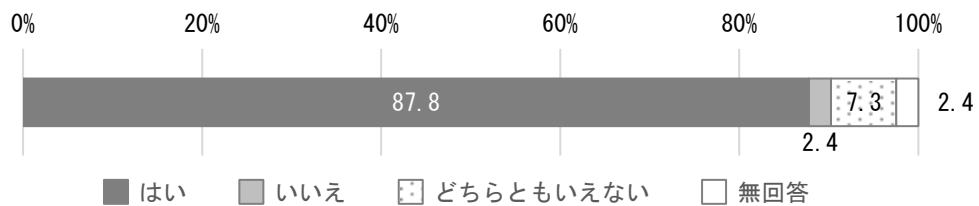
(阪神電気鉄道株式会社 都市交通事業本部 都市交通計画部 安全・防災担当 課長  
大西様)



### (3) 期待していた情報は得られたか

約9割が、期待していた情報が得られたと回答

- ・「はい」の得られた情報として、帰宅抑制の考え方・重要性、地域としての防災対策の重要性、災害対応事例などの意見がある。
- ・「いいえ」「どちらともいえない」の理由として、東京の取組みが大阪に生かすことができるのかわかりにくいなどの意見がある。



N=41

#### <「はい」との回答者> どのような情報か

##### 【帰宅抑制、帰宅困難者対策の考え方に関して】

- 帰宅抑制に関して良い情報であった。
- 帰宅抑制について
- 帰宅抑制等の考え方についてわかりやすく情報を得ることができた。
- 一斉帰宅抑制を「防災対応」ではなく「経営責任・社会的責任」として整理いただいた点が非常に参考になった。
- 災害時の従業員および避難者の安全確保は義務
- 一斉帰宅の抑制の考え方
- 「被災者」を「支援者」という考え方が勉強になった。
- 「帰宅困難者」の本当の意味を理解できた。
- 発災時における一斉帰宅抑制の重要性
- 発災時は動かないことが重要だということを確認した。

##### 【地域（エリア）としての防災対策に関して】

- エリア防災
- 地域連携の考え方
- エリアのブランド力
- 新宿ルール
- 企業・団体だけの対策ではなく、エリアとして協力した帰宅抑制の考え方
- 個社 BCP の限界や、エリア防災（DCP・BCD）の必要性について、具体事例を交えて理解を深めることができた。
- 個々も大事だが、エリア全体での防災計画の重要性を改めて認識した。

##### 【受入れ、一時滞在施設に関して】

- 受入れ体制や社員への意識づけが把握できた。

○一時滞在施設において、例えば天井が崩落するなど、建物に起因して帰宅困難者が損害を受けた場合、施設管理者に賠償責任が生じる場合も考えられるが、これを法制度で一律に免責とすることは現状では民法上の被災者保護の観点から困難とのことであり、受入れ側としては一時滞在施設として提供することに消極的にならざるを得ないと思う。法制度の改善が急務である。

**【訓練・周知等の日ごろの取組みに関して】**

- 日々の自分ごとになる訓練
- 社内における帰宅抑制の周知についていろいろと参考になった。
- 形だけの訓練では安全配慮義務を履行したことにはならない。
- 他地区の具体的事例（新宿ルール、実践のための行動指針、教育訓練プログラム等）
- 社内での発災に対する教育・訓練について、阪神・淡路大震災を経験した阪神電車は充実していると感じ、必要に応じて取り入れていこうと感じた。

**【事業者としての役割・考え方に関して】**

- 阪神・淡路大震災で被災した経験を持つ鉄道事業者としての役割、重要インフラ（電動事業者）としての役割
- 客をはじめとしたステークホルダーのみなさまに鉄道事業者として知っていただきたいことや考えを明確に伝えていただいたこと。

**【災害対応等事例に関して】**

- 東日本大震災時に見えなかった未知の危険への対応
- 阪神・淡路大震災の際の鉄道事業者としての対応について貴重な体験談を聴講できた。
- 阪神・淡路大震災や東日本大震災の経験から、近い将来に発生するであろう南海トラフ大地震を想定した対策は官民ともにBCPや地域防災計画を樹立している。大地震を含む豪雨・内水反乱・広域停電等多種の大規模災害は一斉帰宅や情報不足による二次被害である。
- 直接被害だけでなく間接被害や、安全配慮義務に関する判例の紹介、鉄道事業における被災復旧対応等、大変参考になった。
- 帰宅困難者が発生した場合の対応法を学ぶことができた。
- 不安軽減策

**【具体的な取組み・事例】**

- 具体的な対策作成手順、対策の考え方・進め方など
- 過去の事例からの学び、対策を実行している事例、企業の取組み
- 具体的な取組み
- 帰宅困難者対策についての先進事例
- 他地区、他社の具体的な考え方や取組み事項
- 一斉帰宅抑制にかかる他社の取組み事例

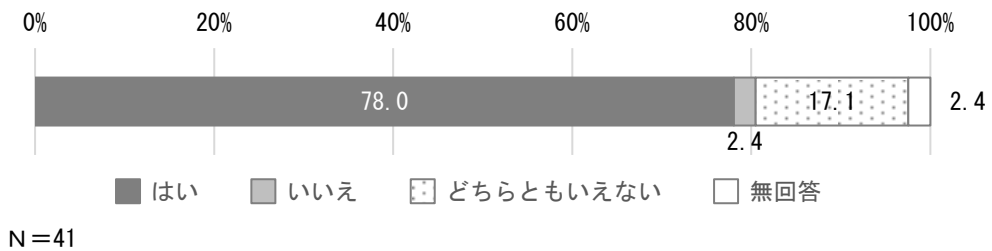
**<「いいえ」「どちらともいえない」との回答者> 理由**

- 東京の取組みが大阪に生かすことができるのかわかりにくい。
- 期待していた情報は特段なかったが、大変参考になったのと、改めて普段の備えや、訓練の重要性を再認識した。
- 帰宅困難者の発生を減少させるために、津波到達までに時間がある場合、建物内で垂直避難を案内せずに、津波浸水区域へ逃げていただく策はないかと模索していた。
- 以前と同じ内容の講演であった。

(4) 自社での帰宅困難者対策に役立つと思えたか

8割程度が、自社での帰宅困難者対策に役立つと思えたと回答

- ・「はい」の役立ちそうなこととして、一斉帰宅抑制の取組みや社内での意識向上、訓練方法などの意見がある。
- ・「いいえ」「どちらともいえない」の理由として、自社のみでの対応の限界、共助が機能するのか不安などの意見がある。



<「はい」との回答者> どのように役立つそうか

[帰宅抑制、帰宅困難者対策等に関する取組み]

- 帰宅抑制の重要性に役立つ。
- 留まることの重要性
- 一斉帰宅抑制を社内浸透させたい。
- 従業員の防災に取り組む意識向上に役立てられると思った。
- 帰宅抑制についての意義をわかりやすく説明する参考になると感じた。
- 帰宅抑制のルールを早急に作成する必要がある、前に進めると思った。
- 現在BCPの見直しを進めており、帰宅困難者対策についても考えなければならない。
- 帰宅困難者対策にかかる他社の取組み事例を参考に、帰宅困難者対策にかかる考え方や対応方法を見直す必要があるか検討する際の良い機会となった。
- 災害時に「帰宅させない判断」は難しいが、経営として明確に位置づけて、いざという時にスムーズに対応できる準備が必要だと認識した。
- 一斉帰宅の抑制等についての考え方、自助・共助・公助等、関係団体・組織との関係性の中で対応することが大切であるとの気付きは今後役立つと思う。
- 「ハード対策、ソフト対策、ひとづくり」それぞれ対策検討の際に、他地区事例が役立つと感じた。
- 実例を基とした対応策
- 良い取組みを自社の取組みに反映していきたい。
- 建物のキャパが限られているので、垂直避難一辺倒の案内も問題があるのではと考えていたが、建物の外も危ないので垂直避難を第一候補として、今後の避難誘導のあり方を検討する。

[地域（エリア）としての防災対策]

- 大丸有地区防災計画
- 業務・商業地域としての防災対策が必要
- 帰宅困難者が発生した場合に、近隣の施設に行っていただき、復旧まで待っていただく。

**〔受入れ、一時滞在施設での対応〕**

- BCP、受入れ役としての準備
- 備蓄品配布の考え方、方法
- マイナスをプラスに変える発想転換
- 協定における考え方や文言が参考になった。

**〔訓練方法などに関して〕**

- 訓練の方法・新宿・アサヒグループ・ディズニーリゾート
- 訓練の必要性や経験値を上げることが大事
- 訓練についてはとても参考になった。
- 定期的に訓練を実施しているが、未だできていない点は役立つ内容も網羅されていた。
- 教育訓練（研修）プログラムが自社訓練にも応用できそうである。

**〔事業者としての役割・考え方に関して〕**

- 鉄道としての役割
- 鉄道事業者として客をはじめとしたステークホルダーのみなさまへ周知すること等の深掘り
- 鉄道事業者としては、早期運転を目標とし、適切な情報発信が必要であると改めて感じた。

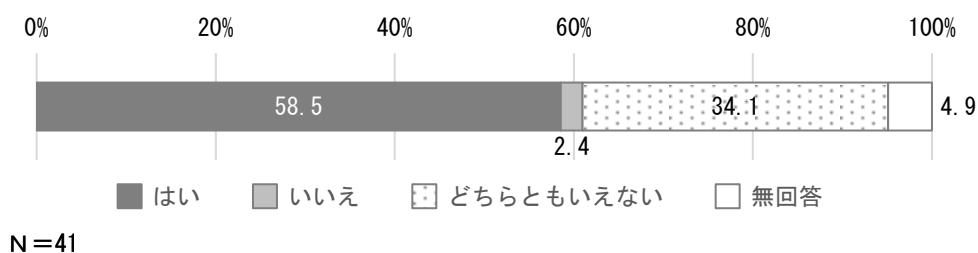
**<「いいえ」「どちらともいえない」との回答者> 理由**

- 共助などでの具体的にできうことが見えにくい（被害が大きいと何もできない等）。
- 自社勤務者ではない者（来客・来街者）への対応については、自社のみでは対応を決定することが難しい。
- 自社での帰宅困難者対策には限界がある。
- 自社の取組みとビル全体の取組みをして、リンクさせて、それをもって梅田地区と大阪市がリンクしていないと、有事の際に機能するのかと不安に思った。
- 協議会自体が帰宅困難者対策を講じることは想定していないが、協議会加入企業各社が自社での対策を検討する際には役立つと思われる。
- 役立つような内容が少ない。

## (5) 自社での帰宅困難者対策への取組みが変化すると思えたか

約6割が、自社での帰宅困難者対策への取組みが変化すると思えたと回答

- ・「はい」の変化しそうなこととして、計画・マニュアルづくりや訓練、地域（エリア）としての連携などの意見がある。
- ・「いいえ」「どちらともいえない」の理由として、すぐにはできなこともある等のほか、情報発信や周知活動の継続的な取組みが必要などの意見がある。



### <「はい」とした回答者> どのように変化しそうか

#### [計画・マニュアルづくり、訓練、各対策等]

- 様々な考え方を入れた計画の策定、対応・対策を変化させなければと考える。
- 具体的な取組み、マニュアルづくり等
- とどまる体制が大切と実感したので、それをどのように運用するかの取組みを考えたい。
- 一斉帰宅や「迎え」は必要最小限にするように取り組む。
- 社内周知の再強化
- 自分ごとで考える取組みを進める。
- マニュアル作成だけでなく、実際に機能するために、訓練などへの意識が変わる。
- 意識の持ち方～企業責任の自覚～、訓練の頻度（日常化）
- 既存訓練に帰宅困難者を想定した要素も入れていきたいと思う。
- 消防訓練において得た内容を取り入れていきたい。
- ビル全体のすり合わせが必要
- 安全配慮義務
- 客の避難誘導方法が変わる。
- 紹介いただいた事例を参考に、取組みを深度化させていく必要があると感じた。
- あらゆる場面を想定し、取り組んでいかねばと感じた。
- 実例を基とした対策の見直し
- 多くの参考となる内容があった。
- より真剣に取り組んでいく。

#### [地域（エリア）としての連携等]

- 大阪市各地区の帰宅困難者対策協議会との連携を深めていきたい。
- エリアにおいての自社の位置づけも考慮した対策も検討していく。
- 帰宅困難者対策は、会社の防災部門の個別対応ではなく、周辺施設・地域との連携についても検討したいと考える。
- 自社のみでなく地域と連携する対応を心がけることを更に考えていけたらと思う。

<「いいえ」「どちらともいえない」とした回答者> 理由

- すぐにはできないこともあると思う。
- 取組みに生かすための内容があまりない。自身の基本的な知識の振り返りとしては充分
- 駅ビル建物内には多くの事業者が入っており、議論を進めながら慎重に進めていきたい。
- 自社勤務者ではない者（来客・来街者）への対応については、自社のみでは対応を決定的にすることが難しい。
- 発災時には業務継続を主としており、社の方針は現状維持かと思われる。
- 他人ごとが多いので、それを是正していきたい。
- 一般の客にもセミナーの考えが浸透する必要があるので、これからも継続して情報発信していく必要があると感じた。
- 警備上の観点から帰宅困難者の受入れは困難であるが、職員に対して、帰宅困難者とならないための対策等の周知に努める。
- 協議会自体が帰宅困難者対策を講じることは想定していないが、協議会加入企業各社が自社での取組みを進めるにあたって、良い方向に変化することを期待する。
- 自社だけでなく、エリア全体としての取組みの必要性がより理解できたので、全体での取組みがどのように変化していくかによるものと思われる。
- 帰宅困難者は地域の問題、鉄道は早く復旧させることが役割であることを改めて認識した。
- 鉄道事業者として行うべきこと（早期復旧・早期運転再開）は変わらず、それに注力することが最大の対策と考える。ただし、社員の教育や、お客さまや市民を巻き込んだ訓練や周知活動の実践など鉄道事業者としてできることを更に深める必要を感じた。

(6) 今後、セミナーにおいて講演してほしい内容や、その他のご意見

セミナーにおいて講演してほしい内容として、様々な企業の対策や取組み事例、大阪の対策等をベースにした内容、施設管理者としての法的責任とリスク整理などの意見がある。

ご意見

- 今後とも、様々な企業の対策を知りたい。
- 大阪の被害想定や帰宅困難者対策をベースにした講演
- インフラ事業者の様々な取組み事例の紹介
- 関西の先生の話が聞きたい。
- 帰宅困難者の発生を減少させるとの観点でどのような策があるかも教えてもらいたい。
- 施設管理者としての法的責任とリスク整理について、実務的な事例紹介があると、より実務に活かしやすいと感じた。
- エリア防災を推進していくための行政の考え方、動きを教えてください。
- 一斉帰宅の抑制は社員の認知度もまだ低く途上段階なので、多くの事例紹介が参考になる。